生体腎移植を見学して

生命科学科　　永井　陽子

今回、担任教員によるチュートリアルで「移植医療」のテーマに取組んだ友人の誘いを受けて、初めて「手術」というものを見学しました。テレビや漫画の中の手術では感じられないものがたくさんあり、良い体験になりました。

まずは、手術に携わる人達の役割分担です。手術を担当する執刀医の先生や、手術中の患者さんの世話をする方、モニター管理をする方、先生と連絡をする方、など多くのスタッフの連携を見ることができ、みんながいて手術が成り立っていることに改めて気づきました。

次に、先生の真剣さです。手術に絶対はないと言いますが、途中で何度か予測以上な状態になったようで、先生が緊張しておられる場面がありました。私は、何がどうなったのかは良くわからなかったのですが、とにかく頭の中で混乱していました。しかし、先生は臨機応変というのでしょうか、必死に手術を続けておられました。その冷静な判断や態度はすごいと思います。また、周りの先生を指導しながらの対応もすごいと思います。あと、杉谷先生がうまくできていない先生に厳しく指導しておられる様子を見て、命を扱うことの責任の重さを実感することができました。また、先生の体力にも驚きます。私は７時間立ちっぱなしなだけでヘタヘタだったのに、先生はどれだけ精神的に疲れておられるのか想像できません。杉谷先生は私達が見学をさせていただいた手術の後に、兵庫での手術に立ち会われると言うことでした。外科医は体力が大切だと聞きますが、本当にそうだと思います。疲れたなんて言っておれない仕事なのだと思います。

また、単に手術といっても、それに至るまでの過程の長さに驚きました。移植の場合、裏で金銭のやりとりがないか、ドナーとレセプが偽った関係ではないか、ドナーとレセプの抗体反応の有無など、事前に調べることが多いことを初めて知りました。

生の腎臓を見て、体ってすごいと思いました。人間がどんなにがんばって腎臓にかわる装置を作っても、本物の腎臓にはかなわないと聞きました。あんな小さな、何とも言えない精巧な固まりが身体の中で常時大切な役割を果たしているのだと思うと、すごいとしか言えません。

手術室にはたくさんの器械がありました。カメラで覗きながらの手作業、微妙にサイズの異なる糸などを見ることで、最新の医療の発展を実感できました。私は生命科学科の学生なので、実際に手術を担当することはないですが、今回の手術見学で、医療における医師他の医療スタッフの役割を直接感じることができました。大事な手術に、私のような学生を参加させていただき、本当にありがとうございました。この経験を自分の将来に生かせたら良いと思います。